



めざす学校像＜安心して過ごせる学校＞『今日が楽しく、明日が待たれる学校』

学校だより

鈴鹿市立加佐登小学校

電話 059-378-0063

FAX 共用 059-378-0006

校長 山中 喜宏

https://www.edu.city.suzuka.mie.jp/eskasado/

加小っ子だより

令和7年1月17日 No.36

3学期が始まって10日経ちました。とても寒い日が続いています。

登下校の道中はとても寒いです。手袋をしていない子どもをよく見かけます。指が冷たくなるので、ついポケットに手を突っ込んでしまいがちになります。つまりいたときに、とっさに手でかばうことができないことも考えられ、危険です。ポケットに手を入れるのなら、手袋をして手を温めましょう。

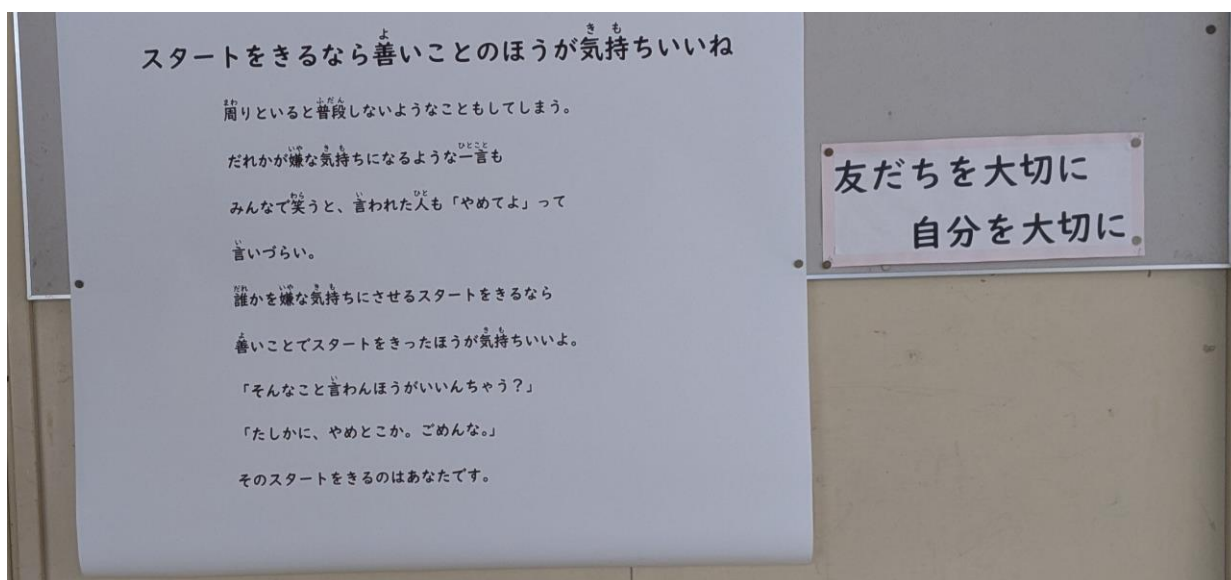
3学期も各学年で様々な取組を行います。学校での子どもたちの様子をたくさん伝えられたらと思っています。

毎月10日は人権の日です

安心して過ごせる学校『今日が楽しく、明日が待たれる学校』を目指して、毎月10日を「人権の日」として、「お互いを尊重し、なかまも自分も大切にする」日とし取り組んでいます。

1月は、『スタートをきるなら善いことの方が気持ちいいね』と題して子どもたちに、「なかまとの関わりの中で、前向きで気持ちのいい場の雰囲気や自分も友だちも大切にする言葉がけがあると、1年のはじまりもいいスタートがきれるよね」という思いを掲示しました。

言葉のかけ方や場のいい雰囲気づくりによって、1年のはじめにいいスタートが切れ、なかまとのいい関わり方の中で、お互いを高め合うことができるといいですね。



認知症サポーターとは？

1月14日(火)、6年生で認知症サポーター養成講座を行いました。

超高齢社会となっていく日本の中で、認知症を患う高齢の方が増えてきています。そのような社会の中で、認知症に対する正しい知識を身に付け、その人の気持ちに寄添ってサポートしていく必要があります。笑顔で支え合える地域、社会となるよう、社会福祉協議会の方々に「高齢の方への接し方」や「身の周りの高齢の方が認知症になったときの接し

方」を動画も交えて、ていねいにわかりやすく、教えていただきました。

子どもたちはふり返りの中で、認知症について新たな気づきや認知症の方への接し方について考えをまとめていました。



<子どもたちのふり返りから>

- 普段あまり関わりがなくテレビなどでしか聞いたことがなかった認知症がこんなにも身近にあるということがわかって、驚きました。自分の祖父母は元気で、いつもいろいろしてくれますが、認知症になったらそれも難しくなるかもしれません。なので、もし認知症になってしまったときは、いつも以上に気を遣って認知症を感じさせないような幸せな生活を送らせてあげたいです。自分も認知症になったときは、周りから暖かく接してほしいし、今まで通りの生活をしたいので、自分も認知症になった人に温かく接しようと思いました。
- 私は、認知症の方には特別なことをする必要があると思っていましたが、今回の講座で特別なことをしなくても認知症に対する知識を持って、やさしく話を聞いたり手伝ったり、という基本的なことをすることで（病気の）進行を遅くすることができると聞いて自分にもできることはたくさんあるんだなということに気づきました。また、認知症になったからできなくなるということではなく、苦手になるだけなんだということにも気づくことができました。そして、これからは認知症の方や高齢者の方に気を配りながらも、相手を見て優しく話しかけたり、話を聞いたり、できなかったことをできないと決めつけたりするのではなく手伝って、忘れてしまっても叱らずいつも通りに話しかけたりするなど、ちょっとしたことだけど、みんなが安心して過ごせるように自分でできることに取り組んでいきたいなと思いました。
- 認知症という病気のことを私は知っていました。認知症は急に何もかもができなくなるんじゃないくて、パズルのピースみたいに少しずつなくなっていくというのが怖いところだなと思いました。大事な人のことを忘れちゃうのはすごく悲しい気持ちになると思いました。
- 自分のおじいちゃんが認知症なので対処法に困っていて、何が原因でそうになっているのかわからないまま、”認知症”ってことだけわかっていたので、（今日、授業で話が聞けて）スッキリしました。話の聞き方や対応の仕方で認知症、高齢者の方に大きな影響を受けさせるということはびっくりしました。ちゃんと話を聞かなければなと思いました。
- 自分の周りに重めの認知症の人はいませんがおばあちゃんの家に行くと親戚同士でおばあちゃんに「デイサービス行きなよ」とか言っているのをよく聞きます。おばあちゃんは「そんなのいかんわ。畑仕事もちゃんとやっているし」とか言っています。自分はデイサービスに行った方がいいのかはよくわかりません。でも認知症が少しでも良くなるなら行った方がいいのかなと思います。そこはおばあちゃんの思いもしっかりと聞いてできたらいいのかなと思います。
- 私のお母さんは施設で働いているので、よく認知症の話を聞いたりします。歳を重ねることによって、物忘れをしたり、目が見えにくくなったりするし、人によっては家族に暴力などをふるうこともあるのを知っています。でも、その症状は、家族の温かい接し方や施設に入ることによって治るそうです。（高齢者の方々全員ではないと思うし、お母さんから聞いたことあるだけなので、自分の捉え方が間違っているかもしれません。）そして、もし身の回りに認知症の人がいたら、接し方を考えたりするのが大切だと思いました。その接し方は、自分では簡単にできることでも相手からしたら難しいことなのかもしれないから優しく表情豊かに接するのが大切だと思いました。

SNS・インターネットの正しい使い方を学びました

これまでのアウトメディアデーの取り組みの中で、インターネットを利用した動画視聴や SNS を使う時間が長くなっていく子どもの数が4年生から増加していることや SNS のトラブルも見られることをうけて、1月15日(水)、4年生で教育委員会から講師をお招きして、SNS・インターネットの正しい使い方講座を行いました。



授業では、「(インターネットを使っていない) 普段、やってはいけないことをしない。人の悪口など、相手の嫌がることを言わない。」ことや「自分が情報(画像や動画など)を発信するときには、個人情報に配慮する。」ことなど SNS を正しく利用するときには気を付けることを教えていただきました。

5年生や6年生でも実施をしましたが、SNS・インターネットを正しく使って、便利なツールとして活用できるようになってほしいです。

4年生の保護者の皆様には、冬休みの宿題で SNS についての動画をお子様と視聴いただき、感想を記入いただきありがとうございました。今回のお子様のふり返りと共に一部、紹介させていただきます。

各ご家庭におかれましても、インターネットや SNS を利用する際にお子様と話し合っ、使い方のルールを決めていただくなど、トラブルに巻き込まれないようにご協力いただければ幸いです。

<児童のふり返りから>

- インターネットは良いところもあれば、悪いところもあるから、ふざけて書かない方がいいなと思いました。
- 私は、SNS などで個人情報等を写真で撮ったりしないようにしようと思いました。
- 今日の授業で、インターネットはいろいろ危険なことがあるということが分かりました。ゲームや SNS、YouTube などをするのは、相手の顔、気持ちが分からないから使うのは大変だとわかったし、気を付けないと大変なことになるということもわかりました。
だから父や母は、中学生か高校生になってからと言ってくれていたことが分かりました。
- 私は、ゲームやスタンプだけじゃ伝わらないから電話や直接会って話をして伝えた方がいいことを初めて知った。もし、いやなことを言われたり SNS にまきこまれたりしたら、先生や友達、家族に相談する。SNS に投稿するなら、個人情報や家が分かりそうな場所で撮るんじゃなくて、ばれなさそうなところで撮る。悪口やうそを書かない。SNS で個人情報を書かない。友だちの個人情報を SNS とかに絶対に書かない。
- インターネットは、もしかしたら世界中に広がるということが分かりました。悪ふざけで動画を送って、これはダメだと思って、自分で削除しても、相手が削除しないと動画は消えないこともわかりました。
- インスタグラムや X に投稿をしたらダメと思いました。顔を写したり、電話番号や名前、学校名などを写したらダメということが分かりました。友だちの顔もインスタグラムにあげたらだめと思いました。気を付けたいと思います。

<保護者の皆様の感想（冬休みの宿題から）>

- 自分が何気なく言った一つの言葉でも、人によって感じ方が違うことを子どもに知ってもらえた。また、仲良しグループ内でもいつどこで自分に悪意を向けられるか分からないことも一緒に話すことができました。今はスマホは持たせていないですが、周りが持つようになったときや買い与えるときには十分に説明して使わせることと、もし何か気になることがあった場合は隠さずに話すようにしてほしいと思いました。
- 今回子どもと一緒に「いじめをノックアウト」の動画を観て SNS がどれだけ人間関係に影響を与えるかを改めて感じました。私の子どもに普段から SNS を使う際には思いやりの心を大切に、他人の立場を理解することを伝えていますが、改めてこのような教育が重要だと感じました。親として子どもが SNS を使い始めるときには、十分に注意し、もし問題が起きた時にすぐに相談できる環境を整えることが必要だと感じました。
- SNS やラインは誰かを悲しませるツールではなく、誰かを楽しませたりやさしい言葉をかけたりするツールであって欲しい。つらいときに吐き出せるツールであって欲しい。人を攻撃したり、おとしめたりする使い方をしないでほしい。使い方次第で人を殺せたり、また救えたりするツールになる。楽しく優しい使い方を子どもには教えていきたい。
- ライングループはなるべくなら作らない方がいいと思うけど、仕方なくグループに入った場合は、連絡事項のみのコメントにしてほしい。もし、その中で動画のような個人を攻撃するような内容が出たり、悩むときがあれば、すぐに相談できる親子関係でありたいと思います。
- SNS でのやり取りは極力しない。必要最低限の連絡だけ。みんながそうすればいいのにと普段から思っています。SNS が普及して、便利なようで不便な世の中。電子機器でのやり取りばかりで、顔を見て声を聞いてのやり取りがなくなっていく。必要な過程を省いて不要なやり取りが増える今の時代は、人の気持ちが分からない人が増えたように思います。
- SNS は、教室などと違い特定のなかまだけでやるものなので、ふざけたりするのでも度が過ぎていじめに発展していても気が付かない怖さを感じました。写真については、デジタルデータでコピーを簡単に不特定多数の人に渡してしまうために、大人でも意図しなくても流出してしまうニュースを聞きますし、個人情報の取り扱いについて家庭でも教えていく必要性を感じました。
- 自分がされて嫌なことは自分もしないこと。そう言い聞かせていきたいと思います。
- 動画を見て、「自分ならどうする？」と問いかけながら考えて見てもらいました。自分で考える力を日ごろから身に付けておくことが大切だと話をしました。自分で考え、行動してもらいたいなと思います。
- 今はラインでつながることができ、それがプラスになる反面トラブルも起きるので、親として子どもの話を聞かないといけないと思った。トラブルを起こすのもよくないけれど、防いだり、解消していくことも大切だと思いました。